

令和3年度 こばとこども園 教育活動等に対する学校評価

令和4年3月2日

1 こども園の教育目標 … 明るく素直な子

- ・思いやりのある子
- ・進んで運動や遊びに取り組む
- ・自分で考え、のびのび表現できる子

2 本年度の重点目標 … 夢中になって遊ぶ子

- 満3歳 園生活(遊び)を楽しむ
- 年少 友だちと楽しく遊ぶ
- 年中 遊びに喜んで取り組む 友だちと楽しく活動する
- 年長 進んで活動に取り組み、最後までやり通す
感じた事・考えた事を表現する

あまり当てはまらない)・1(いいえ、そう思わない)・0(無回答・該当外)

(No. 1)

評価対象	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員 御意見
		R1	R2	R3	
1. 教育・保育の計画性	①園の教育理念・教育方針を理解している	3.1	3.2	3.2	保育をする際、園の教育理念・教育方針も意識して保育をしている。
	②認定こども園教育・保育要領の理解に努めている	3.1	2.9	3.1	教育・保育要領を見ながら、子どもの発達や年齢に沿った保育ができるよう指導案をたてている。
	③園の教育目標や教育・保育要領を元に教育課程や指導計画を立てている	3.3	3.4	3.4	園の教育目標を理解し、それをもとに指導案を立てている。が、保育の目的に関してはまだまだ不十分。今後は保育も含めた指導案の作成を考えていく。
	④乳幼児の発達段階や実態などをベースに、歳児ごとの指導計画を考え作成している	3.2	3.6	3.3	目の前の子どもの様子や発達段階を踏まえ、今のクラスの実態に合わせた計画を立てている。
	⑤子どもの生活や動き・思いを大切に環境構成を工夫している	3.5	3.6	3.4	子どもの行動や言葉から、子どもの思いを考え、子どもが楽しめるような環境構成を考えてきた。遊ぶ姿をみながら、保育室内の導線や環境もつくってきた。
	⑥幼児期の終わりまでに育てたい10の姿や小学校との接続を意識している	3	3.3	2.9	日々の反省や、毎週の振り返りを大切に行っている。また、「10の姿」を意識しすぎてしまうと、偏ってしまうので、振り返りでしっかりと見直し、他のことにも気づけるようにしたい。
2. 保育の在り方・子どもへの対応	①朝の登園時には特に視診を大切に、子どもの体調が悪くないか確かめている	3.8	3.9	3.8	数日の子どもの様子など常に把握して朝の様子で少しでもいつもと違うことがある子どもはチェックしている。手をつなぐと体調がわかることもあるので、スキンシップは大切。
	②一人ひとりの思いを大切に受け止め、個に応じた支援を心がけている	3.8	3.7	3.7	一人一人に合わせた保育を心掛けて努力しているが、子どもどうしのトラブルが増えた時、その子の気持ちに十分寄り添えているか、心配なときもある。
	③遊びこめるような環境や時間への配慮をし、子どもの自主性・自発性を大切にしている	3.2	3.4	3.4	子どもたちが「やりたい！」と思えるような導入方法を考えたり、環境設定を工夫した。さらに、楽しめるように、一人一人の意見に耳を傾けていきたい。
	④行事や活動を通して、子ども同士のかかわりや異年齢児との交流を大切にしている	3.2	3	3.1	コロナ禍を考慮した異年齢交流を今年は意識してきた。行事の時や、行事後の余韻遊びで異年齢児との触れ合いが楽しめた。今後も工夫が必要な項目である。
	⑤教職員全員が、全園児について理解していくように工夫や努力をしている	2.3	3	3.1	今年度は「エルガナ」を使用しての職員内情報の手段の一つとなった。他学年の状況も知ることができ、便利だった。職員室内での話はまだまだ課題が残る。
	⑥支援の必要な子どもの教育・保育について、園で定期的に話し合う機会を設け、個に応じた個別の支援計画を立てている			2.8	学年間では話し合いが出来るかもしれないが、園全体となるとまだまだ課題である。支援の必要な子への配慮の仕方、支援方法がわからなくて悩むこともあるので、園全体研修の充実が課題。
3. 教職員としての能力や良識・適正	①教職員としての話す力や聞く力の向上を意識している	3.2	3.2	3.3	研修が必要な分野。
	②子どもや、保護者との対応には、公平さをかかさぬように平等に接している	3.7	3.8	3.5	日本語の難しい外国籍の保護者には、スマートフォンで写真をとり、連絡を密にとるようにしてきた。
	③自らの健康に配慮し、爪が伸びていないか等、保育上での安全性にも気をつけている	3.6	3.7	3.6	保育教諭自身が、安全であることが一番なので、気をつけている。

評価対象	評価項目	自己評価			学校関係者評価委員 御意見
		R1	R2	R3	
3. 教職員としての能力や良識・適正	④教職員同士のコミュニケーションを円滑にし、片寄った人間関係を作らないようにしている	3.1	3.3	3.3	いろいろな職員とコミュニケーションをとるよう気をつけている。一人一人の個性を尊重しながら接していきたい。
	⑤子どものささやかな成長を見取り、それを喜ぶことができる	3.8	3.9	3.8	子どもの「できた!」など、成長を近くで感じ、小さな喜びが先生たちの喜びへとつながっている。職員同士報告しあったり、保護者には連絡ノートを活用して知らせている。今後も小さな成長も見逃さないようにしたい。
	⑥園の子どものことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	3	3.3	2.9	七夕や鯉のぼり、月見など年中行事を大切に、折々に昔からの慣わしを伝えていきたい。
4. 保護者への対応	①子どもの様子や園情報は、直接話したり、電話・連絡帳等を使ったりして保護者に適切に伝える	3.6	3.7	3.4	子どもの成長に欠かせないのは、保護者との連携だと思う。園での対応を伝えたり、家庭での関わり方など、相互交流することを大切にしている。
	②保護者との会話は、正しい日本語・敬語で語りかけ、相手の話には謙虚に耳を傾けている	3.4	3.4	3.3	保護者が話をしやすいトーンや目線を意識し、失礼のないよう丁寧にしかも話しやすいように接している。
	③園児や保護者の個人情報の管理については園の方針に従い、情報が流失しないようにしている	3.9	4.0	3.8	個人情報については、全職員意識して取り扱っている。
	④保護者からの具体的な意見・要望には適切に対応し、上司に連絡・報告・相談をする	3.8	3.9	3.7	保護者からの質問には、自己判断で答えず、わからないことは、必ず先輩や上司に聞くように心掛けた。今後も引き続き行いたい。
5. 地域の自然や社会との関わり	①園へ見学に来た人に、園の教育方針等を質問されても、きちんと答えることができる	2.8	3.0	2.9	まだまだ理解できてないところもあるので、努力していきたい。
	②子どもの教育のために、利用したい地域の施設や機関、素材について理解している	2.5	3.6	2.6	コロナ禍で出掛けることも少なかったため、地域に目を向けていきたい。
	③地域開放や子育て支援について、具体的な内容を理解している	2.5	2.7	2.6	コロナ禍のため、地域でのイベントが無くなったが、近隣の公園などを利用している。
6. 安心と安全	①ヒヤリハットの事例については振り返りを行い、大きな事故につながらないようにしている	3.2	3.6	3.5	ヒヤリハットのノートを作成したことで、意識して記入するようになった。また、子どもの危険行動や危険箇所についても、話し合っている。エルガナでも共有したことで気づけるようになった。
	②安全点検、検食、訓練等は適正に実施対応し、安全意識・防災意識を高めている	3.2	3.4	3.4	実際に訓練をして、課題をみつめることができた。担任の動き方もその都度話し合い、反省できた。子どもたちも繰り返し訓練を行い身についてきた。今後も様々な場面を想定して訓練をしていきたい。
	③健康で安全な生活を守り育てるために、感染症対策等に自ら取り組み、子どもや家庭への啓発に努めている			3.5	保健だよりや、身体測定時など、子どもや親に感染対策、保健指導などを伝えてきた。必要な研修には積極的に参加し、還元研修に心がけている。
7. 研修と研究	①遊びと生活の専門性(職務の専門性)を高め、知識や技能を身につけるよう研修している	3.0	2.9	2.8	研修や先輩の保育から自分に足りないものや、もっと高めたいものなどを見つけ自分の保育に取り入れていけるよう記録し、心掛けた。
	②日々の実践を見合い検討・反省・評価を加え、教育・保育の質の向上に繋げている	3.4	3	3.2	園内研修の反省や、日々の雑談でも他の職員の見解を聞きながら自分の保育をよくするために考えている。
	③自分の教育・保育の在り方や悩みについて、同僚の教職員や上司等と話し合っている	3.2	3.1	2.9	自ら相談したり、話しかけられやすい環境をつくる努力をしている。
	④専門知識や技能の他に、趣味や読書・ボランティア活動などにも関心をもっている	3.0	2.9	3.0	研修に参加したり、本を購入したりし、知識を高めている。引き続き努力していきたい。
	⑤パソコンやタブレット・スマートフォンなどのICT機器を前向きに活用し、教育・保育の充実に努めている			3.2	かなりの職員が活用してきているが、苦手な職員もいる。苦手な職員は得意な職員に教えてもらいながら努力している。

〈こども園の教育・保育をより充実していくための御提言〉

・私はこばと幼稚園、小学校、中学校と役員を多々経験させていただきました。その経験の中で感じたことが一点あります。活動する際に「何のためにするのか?」「誰のために行動するのか?」ここがブレると良い結果は出ないと思います。こども園が経営を安定するためには当然利益を出していただくことは大事です。そのためには、素晴らしい教育をして、入園をたくさんのお親御さんにしていただく。環境を整えるためには、いい先生方・職員の方々が必要です。園に関わる方々が「園児たちのために力を合わせて、皆さんがWIN-WINの関係になれるよう願っております。

・コロナ禍で教職員の皆さんの御苦労に対して感謝しています。これからも子供たち、保護者の安心・安全をよろしくお願ひいたします。

・感染症に翻弄された一年となりましたが、園にとっても保護者会にとっても、今まで当たり前のように続けてきたことも、本当に必要か?このやり方で良いのか?を考え、より良い形へと変えていく絶好のチャンスだと思います。このような状況の中でも、雪遊びなど、子どもたちのために素敵な思い出をありがたうございました。

・役員をやらせていただき、先生方の御苦労や日々の努力を身近に感じる事ができました。やはりコロナに左右されたり、各家庭それぞれ事情が違う中時代の流れに沿った変化も必要なのだと感じた。先生のお顔と名前がわからず、自己紹介があるといふことなど思うことがある。コロナ禍だがその時しか見ることのできない子供の成長や姿を見られる方法を保護者としても望んでいます。園のコロナへの対応などはとても安心できる者だと思っておりますし、今後も協力していきたいです。毎日ありがたうございます。